

北海道教育委員会教育長 様

北海道浜頓別高等学校長 北 村 京 一

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 学力向上	主体的に学ぶ生徒を育てる。
(2) 進路実現	自立する生徒を育て第一志望を実現する。
(3) 情報発信	浜頓別高校の魅力を積極的に発信する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別授業とICT機器の活用 英語、数学において習熟度別展開授業を実施し、基礎学力の向上に成果を上げている。 授業にICT機器を活用し、生徒の興味関心や理解を促し、学力向上に貢献した。 ○授業見学、授業評価、校内研修の 一体化による授業改善 公開授業週間等で教科横断的に授業見学を行い、授業評価とあわせて授業改善につなげる取り組みを行った。 生徒が主体的に学習できる授業について、教員どうしが学びあえる機会を設けることができた。 ○生徒の実情に応じた取り組みの 必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校でも家庭学習の時間がとれていないので、保護者とも連携して、早い時期から、将来を考えさせることも含めて取り組みが必要。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度は教員配置の関係から、習熟度別展開授業を実施することが困難なため、授業、放課後学習、個別指導を組み合わせ多様な学力の生徒に対応する。 確実な学力向上に資するICT機器の活用について、十分考慮したうえで今後も積極的な活用をしたい。 ○授業見学、授業評価をふまえた授業改善を次年度以降も継続して校内研修のテーマとして扱い、PDCAサイクルによる授業改善が実効性のあるものとさせる。 ○各教科・科目の授業やHR単位だけでなく、学校全体（全学年を対象）で家庭学習を促す機会（学習日・週間の設定など）としくみを構築する。各種資格・検定等の取得を推奨し、家庭学習に取り組む必要性を生み出す。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラー講話を2度実施した。今年度、いじめ関連で大きな問題は起きなかった。 ○生徒との面談を各学年で定期的に実施し、生徒情報共有した。生徒指導事故や不登校はゼロだった。 ○今年度は昨年度よりは行事を実施することができた。 各中学校での生徒会による学校説明会や、中高連携学習会などに参加することで、生徒は自己有用感を育んだ。部活動は少人数で大変だが頑張っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○浜高への進学者が減る中で、中高連携学習会や交換授業等は大変素晴らしい取り組みである。 ○浜中に限らず、近隣の他町村の中学校との連携も必要ではないか。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○講話などだけでなく、普段の授業などから、情報リテラシーや人権尊重意識を醸成できるようにしていく。 ○引き続き、定期的な面談などを実施することで生徒理解を深め、職員会議などで情報を全体で共有していく。 ○コロナに対応した行事のあり方を継続的に探るとともに、通常であっても生徒数と教員数が減少することを想定し、行事や活動を持続可能な形にしていく。部活動では地域の力も借りて存続させる。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し面談を実施しミスマッチのない進路指導へ繋げることができた。また、面接指導の充実を目的とし外部講師による校内研修を実施した。 ○スタディサプリや外部機関の活用による講習や講演の整備を図ることができた。 ○キャリア教育の充実を図るため、近隣企業や上級学校との協力によって説明会や相談会の実施を進めることができた。 	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の進路決定につながる情報発信を行う。 ○今年度実施の外部機関の活用を活かし講習・講演の制度設計を行う。また、キャリア行事の充実のため、オンラインの活用も含め関係機関や町内企業と連携し、行事運営の改善を図る。 	

健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策について継続的に指導を行い、感染流行を防ぐことだけでなく、予防行動の定着や健康管理意識の向上に働きかけることができた。 ○全校生徒を対象として健康相談を実施し、個に応じた教育相談体制の充実をはかることができた。積極的に教育相談を行い、指導・支援につなげることができた。 ○定期的安全点検を行い、危険箇所の点検・修繕に努めることができた。 	○コロナ禍の対策の中ではあるが、生徒が思い出に残せるような行事等について努力して欲しい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○健康課題に焦点を当て、関係教員・関連機関等と連携した計画的な保健指導の徹底、掲示・配布物等を活用した積極的な情報発信を行う。 ○関係機関等を含めた教育相談体制の構築を図り、迅速かつ丁寧な組織的対応につなげる。 ○計画的に点検を行い、修繕が必要な箇所に関しては迅速に対応し、生徒の安全管理に努める。 	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による中学校生徒、保護者へのプレゼンテーションを行い、積極的な情報発信を行った。 ○ホームページのタイムリーな更新につとめ、情報発信を行った。また、町の広報担当者や、地域報道関係者と連携を密に図り、学校の細かな活動についても、報道してもらい、教育活動の周知に務めた。 ○自然観察学習や、農業後継者育成事業、地元企業による校内説明会等を実施し、地域と密着した教育活動を実践し、効果をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生やその保護者のみならず、中学校教職員等へも広く高校についてPRすることも必要である。 ○中学校も変わりつつある。更に連携して良い方向へ向かって欲しい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が学校経営シラバスの重点とスクールミッションを意識し、目標を明確に、共有し実践することが重要である。 ○本校の様子を広く、知ってもらうために、引き続き広く積極的な情報公開を行う。 ○三者懇談会の内容を受けた中高連携事業の実践について、計画的に実践できるよう体制を整える。 ○総合探究学習への位置づけ等、地域と連携した教育活動の組織体制を整える。 	
組織運営	○新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた、新しい生活様式を進めるにあたり、前年度踏襲を改め、働き方改革を踏まえた、行事の見直し、実践方法の再検討を行った。実効性と教育効果の向上を意識した改革に取り組んだ。保護者や関係からお評価をいただいた。	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○一問口としての新たな組織体制を構築するとともに、年間計画の見直しと、業務の精選による実効性を高めた、教育活動推進に努める。 ○地域連携事業の見直しを図り、人数減により、出来ることと出来ないことを整理し、一つ一つの関わりを大切にしたものにする。 	
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による授業参観を積極的に行い、教員の授業改善に向けた意識の向上を図った。ICTを効果的に活用することで、生徒の興味関心を高め、深い学びに向けた授業実践に取り組んでいる。 ○各種通知や、事故情報等を定期的に職員に提供し、注意喚起を促すとともに、事故の問題として捉え、危機管理意識の向上に務めた。 ○他校への視察、外部講師の招聘等による教員研修の場を多く持ち、資質能力の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参観日などに行けず、中の様子をよく理解することができなかった。 ○教員等に対しても、心と身体に余裕を持つことができる職場環境を作ることも大切。生徒と接する面でもゆとりを。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○教員個々の実践を、研修会等と連動させ、学校全体として授業力向上につながる体制を構築する。年間の通じた研修テーマを設定し、実践、評価、改善のサイクルを構築する。 ○日常の呼びかけとともに、職員会議や、研修の場をとおして、危機管理意識を向上させる。事例研究等を積極的に取り入れ実践力向上に努めたい。 ○「指導力向上」を意識させ、日々の実践を評価しあえる雰囲気作りと、ミドルリーダーが育つ環境づくりを行う。 	
公表方法	学校ホームページ・学校だよりにおいて公表	